

# 第6学年1組 社会科学学習指導案

令和4年7月6日（水）5校時

指導者 河角 公二

## 1 単元名 縄文のむらから古墳のくにへ

## 2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、世の中の変化の様子を考え、表現することを通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、遺跡や想像図、出土品、年表などの資料で調べ、必要な情報を集めて読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、むらからくにへと変化したことを理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）について考え、表現している。 ②狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の変化の様子を考え、適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習問題を立てたり、学習をふりかえったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 4 単元の内容について

本単元では、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一を取り上げる。縄文時代までは人々は協力してくらしていたが、弥生時代になり米づくりが始まったことによって、貧富の差や指導者と従事者などの上下関係が生まれた。そして、裕福な者や指導者が各地の支配者となっていき、有力豪族を中心とした大和朝廷をつくる。人々のくらしの変化が社会や国の体制の変化と密接に関係していることを本単元で捉えられるようにしていきたい。

本単元は、第6学年の歴史学習の最初の単元である。子どもたちの中には、書籍やドラマなどを通して、日本の歴史に興味をもっている子も多くいるが、歴史学習は普段の生活の中では身近に感じにくいものである。そこで、島根県や松江市の遺跡や古墳などを取り上げ、自分たちがくらしている地域にも大昔から残されているものがあることを知り、歴史学習をより身近なものとして捉えていくことができるのではないかと考えている。また、神話や伝承などの児童が興味をもちやすい物語などを活用することで、歴史に親しみがもてるようにもしていきたい。

本校社会科部では、探求の学習過程を「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす・ふりかえる」の4つの場面に設定している。

「つかむ」の過程では、まず、縄文時代と弥生時代のくらしの想像図から当時の人々のくらしについてイメージをもち、比較することで単元を貫く学習問題をつくっていく。2つの想像図を比較すると、弥生時代になると米づくりをしていたり、むらの周りに堀や柵ができ、見張りの兵士がいたり、人々のくらしの様子が変わっていることに気づく。この気づきから、「縄文時代は季節や住む場所に合わせたくらしをしている感じがしたけど、弥生時代はみんなで米づくりをするなど、協力して生活しているから、くらしの

様子が大きく変わっているよ。」「米づくりが始まって土地を奪い合うようになったのかな？」などの疑問や思いを子どもたちから引き出し、学習問題（【米づくりが始まったことで、人々のくらしは、どのように変わっていったのだろう】）をつくっていきたい。

「調べる」の過程では、弥生時代から古墳時代までの人々のくらしや世の中の様子について、遺跡や出土品、想像図などをもとに調べていく。まず、吉野ヶ里遺跡で発掘された首のない人骨や矢じりがささったままの人骨などの資料から、弥生時代になるとむら同士の争いが起きていたことを捉える。「どうして争いが起こるようになったのか」ということを、弥生時代のくらしの想像図、「魏志」倭人伝に書かれている邪馬台国や卑弥呼についての記述などをもとに、米づくりの始まりや食生活の変化と関連づけて考えられるようにする。さらに、争いが起きることによって豪族や王が力を大きくしていったことを、古墳の規模や出土品、副葬品、広がりなどを通して考えられるようにする。その際、松江市の古墳で島根県内でも最大級の大きさである山代二子塚古墳を取り上げる。弥生時代から古墳時代にかけて、日本各地で勢力を広げていった豪族や王のような大きな力をもつ人々が、子どもたちの地元である松江市にもいたことを捉えることは、段階的に権力が拡大していることを考えるのに適していると考えられる。この学習の後に、仁徳天皇陵古墳を提示することで、さらに大きな力をもった人々によって日本がまとまっていったことを理解しやすくなるのではないかと考える。古墳の分布図や鉄剣・鉄刀からワカタケル大王が広く地域を治めていたことを捉え、大和朝廷の力の広がりを考えることができるようにする。また、「古事記」「日本書紀」「風土記」にも触れ、子どもたちが歴史に親しみがもてるようにしていく。

「まとめる」の過程では、単元を貫く学習問題について、調べてきたことをもとに自分なりの考えをまとめることができるようにする。まとめる際には、米づくりが広がり人々のくらしの変化などを関連づけて考えられるようにする。

「ふりかえる」の過程では、単元全体を通して、調べたり考えたりしてきたことを新聞形式でまとめ、発表する活動をする。そうすることで、相手意識をもって自分の言葉でまとめたり、自分の考えを表現したりすることができ、お互い考えを伝え合うことで、さらに学習が深まると考える。

本時は、山代二子塚古墳を取り上げ、大きな古墳がつくられた理由について考える場面である。まず、古墳の大きさを感じられるようにするために、学校の敷地の大きさと比較する。そして、縄文時代や弥生時代の学習の中でお墓についての捉えと比較しながら、「なぜ、こんなに大きいお墓がつくられたのだろう？」という問いを提示する。その問いを解決するための資料として、山代二子塚古墳をつくっている想像図を提示し、この想像図から、根拠をもって自分の考えをまとめていく。想像図の何を根拠に考えたのかを話し合うことで、子どもたちの大きなお墓をつくることの意味についての考えを深めていきたい。そして、岡田山1号墳の石室の想像図を提示する。一人のためのお墓であることを確認し、古墳をつくっている想像図と石室の想像図を関連づけて考えることで、問いに対する答えに迫っていくことができると考える。そして、次時で仁徳天皇陵古墳を取り上げて古墳について調べるときに、古墳の大きさや古墳をつくっている人々の関係に着目し、山代二子塚古墳と比較して考えることで、権力の拡大や国土の統一を捉えることができるのではないかと考える。

## 5 指導と評価の計画 (全7時間)

※☆は、評価したことを記録に残す場面

学習過程	時	主な学習内容	評価方法と【評価規準】
つかむ	1	・三内丸山遺跡の想像図をもとに、縄文時代のむらのくらしの様子をつかむ。	発言・ノート記述 【思判表①】
	2	・縄文時代と弥生時代のむらの想像図を比較し、むらの様子が変化していることを捉え、学習問題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">【学習問題】米づくりが始まったことで、人々のくらしは、どのように変わっていったのだろう</div>	発言・ノート記述 【思判表①】 【態度①】
調べる	3	・吉野ヶ里遺跡などを調べ、むらの様子がどのように変わっていったのかを考える。	発言・ノート記述 【知技①】
	4 (本時)	・山代二子塚古墳や想像図をもとに、大きな古墳がつくられた理由を考える。	発言・ノート記述 【思判表①】
	5	・仁徳天皇陵古墳や古墳の広がり、鉄刀・鉄剣が出土した場所などを調べ、大和朝廷（大和政権）による国土の統一について考える。	発言・ノート記述 【知技①】
まとめる	6	・調べてきたことをもとに、学習問題について自分なりの考えをまとめる。	ノート記述 【知技②】☆ 【態度①】☆
ふりかえる	7	・単元全体を通して、調べたり考えたりしたことを新聞にまとめ、これまでの学習をふりかえる。	新聞記述 【思判表②】☆

## 6 本時の学習 (4/7時間)

### (1) 目標

山代二子塚古墳をつくっている想像図や石室の想像図、副葬品の写真をもとに、大きな古墳がつくれた理由について考えることができる。

### (2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	目指す姿と取り組みを支える手立て
1 山代二子塚古墳と学校の航空写真を見て、気づいたことを発表する。 ・学校の校庭と同じくらい大きいよ。 ・きれいな四角い形をしているよ。人がつくったのかな？ ・弥生時代は小さいお墓だったのに、何でこんなに大きくなったんだろう？	・同じ倍率の航空写真を提示し、大きさを比較できるようにする。 ・山代二子塚古墳の概要と古墳とは小山のようになっている昔の人のお墓であることを伝える。 ○古墳時代（6世紀）につくられた ○全長94m ・縄文時代や弥生時代のお墓と比較することで、大きさの変化に着目できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">                         なぜ、こんなに大きなお墓がつくられたのだろう                     </div>	
2 古墳をつくっている様子の想像図から大きなお墓がつくられた理由を個人で考える。 ・むらに住んでいるみんなのお墓だから大きくしたと思うよ。だから、みんなで協力してつくっ	・本時の問いに対する自分の考えの根拠となることを想像図から探すようにする。 ・「大きなお墓がつくられた理由」と「そのように考えた根拠」を分けて、ワークシートに記入で

<p>ているよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偉い人のお墓だと思うよ。だから、馬に乗っている人を見張ってつくらせているよ。</li> </ul> <p>3 個人で考えたことを学級全体で伝え合う。</p> <p><b>みんなのお墓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弥生時代のお墓みたいに、上に並べられている土器みたいな物の中に亡くなられた人が入っていると思うよ。</li> <li>・中にたくさんのお墓があると思うよ。</li> </ul> <p><b>偉い人のお墓</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬に乗って指示をしている人がいるから、豪族や王のお墓をつくらせているんじゃないかな。</li> <li>・むらを守ってくれた王のために、たくさんの人できれいな形のお墓をつくっていると思うよ。</li> </ul> <p>4 石室の想像図から一人のために大きなお墓がつくられた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり偉い人のお墓だよ。だって、一人のために、こんなに大きなお墓をつくっているから。</li> <li>・豪族や王みたいな偉い人が大きくつくらせただと思うよ。多くの人を支配して働かせることができるくらい大きな力をもっていたんだよ。</li> <li>・むらの発展に尽くしてくれた人だったから、みんなで協力して大きなお墓をつくったんだよ。</li> </ul> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松江市に、校庭より大きな昔のお墓が残っていて驚きました。私は、馬に乗って見張っている人もいたし、石室も一人のために大刀などの物がたくさん置かれていたから、王みたいな偉い人がつくらせたと思いました。機会があったら、山代二子塚古墳に行ってみたいです。</li> </ul>	<p>きるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが個人考える様子を見て、ペア対話を取り入れる。自分の考えがもてたり、新たな考えに気づいたりすることができるようにする。</li> <li>・古墳をつくっている人に着目している子どもの発言から、「どのくらいの人数でつくっていたのだろう？」や「馬に乗っている人はどのような立場の人だろう？」などと問うことで、資料には描かれていない人や役職などにまで想像して考えられるようにする。</li> <li>・子どもたちの考えが偏った場合は、「誰のためのお墓かな？」「どのくらいの人のためのお墓かな？」など問い、子どもたちの思考を揺さぶるようにする。</li> <li>・岡田山1号墳の石室の想像図を提示することで、一人のためのお墓だということがわかり、どのような人のためのお墓がつけられたのかを考えられるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="810 1070 1437 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">&lt;評価【思考・判断・表現】&gt;</p> <p>山代二子塚古墳をつくっている想像図や石室の想像図をもとに、大きな古墳がつけられた理由について考えている。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてについて考えたことを自分の言葉で書くことで、考えを整理し、次時以降の学習への意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>
---	--

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
山代二子塚古墳をつくっている想像図や石室の想像図、副葬品の写真とこれまでの学習を関連付けて考え、大きな古墳が作られた理由を自分の言葉で表している。	山代二子塚古墳をつくっている想像図や石室の想像図、副葬品の写真をもとに、大きな古墳が作られた理由を考え、自分の言葉で表している。	「なぜ、こんなに大きなお墓がつけられたのだろう」と、個別に声をかけ、本時の問いに立ち返って考えられるようにする。

